

109 學年度第一學期 Eurasia 基金會國際講座

「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」（1）

議題：台湾における東アジア学研究構築と変容

中国文化大学 109 学年度 Eurasia 基金会国際講座第 1 回は、徐興慶学長による「台湾における東アジア学研究構築と変容」を議題に開かれた。学長は冒頭で次のように述べた。コロナがもたらした危機こそ若者の未来の創造への転機であり、それゆえ学生が大学で学ぶ態度はとても重要である。若者は意欲、真摯に取り組む姿勢を持って学ばなければならない。そして近視眼的でなく、遠大な視野を持つよう激励し、まじめな学習、充実した知識と能力、心を開いて語り合える友人の必要性を述べた。

文化大学の校友は数多く、全 27 万人、台湾人の百人に一人は校友という程で、しかも政治、経済、教育など各分野で活躍し、優れた業績を残している。校友こそが文大の財産であり、現在校友マップを作製中で、文大の発展に不可欠な力になることが期待される。学長は留学希望者のために奨学金を募り、その留学期間を利用して日本の若い労働者の態度、企業文化や倫理をじっくり見ることが期待している。

それから学長は「アジア共同体」の概念を説明した。まずヨーロッパ連合、ユーロ、すなわちヨーロッパ共同体を例にあげた。アジアの国家はヨーロッパのそれより倍も多い。「アジア共同体」は百年余前に提議されながら、戦争による歴史的問題が多く、実現の可能性は高くなかった。財団の元の名称は One Asia Foundation、現在は Eurasia、すなわちヨーロッパ・アジアに変わっている。Eurasia の概念は何か？これこそ「ヨーロッパ・アジア共同体」である。この財団の理念は政治や経済上のデリケートな問題を乗り越え、文化、教育の領域から「アジア共同体」がいかにか可能かを考えることである。

佐藤洋治理事長は、アジア共同体を実現するには、「自我の壁」「企業、団体の壁」「国家、民族の壁」、この三つの障壁を取り除くことが先決と述べている。われわれが望むのは国家の概念がより小さな意義となることで、皆が地球村という概念を知り、多くの人々の共通認識となる時、「アジア共同体」は実現可能であろう。また未来にアジア通貨ができ、アジア五十数カ国を自由に通行できることを願う。本財団は教育の成果を通して平和アピール「戦争のない世界」を唱えており、戦争や政治的な問題意識を離れて、世界各国の大学教員と学生から熱烈な共感を得ている。

続いて学長は東アジア学の構築に関し、自身が文化大学へもどってから行った成果を報告した。第一に日本研究を確固とし、日本研究センターを設立した。第二に東亞人文社会科学研究院を設立し、社会・科学・人文の人材を統合して、

学部の垣根のみならず、学校、国家のそれを越え、今日までの研究成果を検討し、台湾の東アジア学を構築しようと試みている。

異文化の観点から、国際日本研究の可能性はすでに以前から推進されており、2010年10月台湾で日本研究論壇「台日相互理解の思索と実践」が催された。学長の招聘により来台した日本の文化庁長官青木保教授は、講演の中で、相互理解がきわめて重要であること、日本研究に取り組む人員が実際に訪問し、日本の現況を詳しく理解し、その上で日本の関連事物について書き著わすのがより理想的であると語った。

国際日本学とは何か。国際日本研究は、国際台湾研究、中国研究、韓国研究などと同じく、普遍的な人類共通の学術形式によって、当該国、当該地域の文化および生活様式が持つ特性、作りあげたものを探る作業のことである。国際日本学の中で政治、経済、社会、文化等のすべての研究領域もこうしたことを求めている。学長は **Japanese studies** を強調した。これもまた日本の日本研究、国際日本研究が学際上その他の学術領域と相互に連結することが必要である。この他に **Area Studies** も重要であるが、日本および台湾の交流の現状から見て、深い相互理解の土台はまだない。例えば、香港、マカオ、台湾は毎年約 800 億の利益を上げながら、貿易赤字は 300 億に達する。地域研究の実行、自国と他国、自地域と他地域、自国の文化と異文化を検討対象にすると同時に、相互理解にもとづく平和で安定した国際関係、地域平和の構築にもそれは必要である。21 世紀の現代世界において、国際地域研究の重要性を明確に訴えることが必要である。

新たな提携モデルの構想に関し、学長は次の議題を例としてあげた。人文と社会の対話に邁進し、東アジアの超境空間をいかに読み解き、若い学者の育成を中心に国際共同研究化はいかに可能か等である。

(Web サイト: <https://eurasia.pccu.edu.tw/index.php>)

(原稿:陳毓敏・日文系副教授)

(日本語訳:塚本善也・日文系副教授)